広報 伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町長公室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市天神通 電話②0091番

第43回臨時議会

向に集会所を建設

一般会計 一千六百三十七万円ふやす

伊方町議会第四十三回臨時議会が八月十一日開かれました。

この臨時議会に提案された議案はつぎの二件です。

◎田之浦漁港海岸保全施設整備事業請負契約の締結について

この事業は昨年からの継続事業で、ことしは工事費一千百九十四万円の費用をかけて延長九十八メートル整備がなされます。

工事は、指名競争入札の結果、竹場建設の手によって進められ、二月頃に完成されます。

◎昭和四十五年度伊方町一般会計補正予算

こんどの臨時議会で補正された一般会計予算の額は一千六百三十七万円で、いままでの予算額をプラスしますと総額三億四千七百六十一万円になりました。

そこで補正された、主な予算の内容をみてみましょう。

総務費

伊方、町見両駐在所の車庫の新設と、伊方駐在所風呂場の建築に二十万円計上されました。

民生費

地方改善事業として二百万円補正されました。

これは、向部落内の中央を流れる九町新川沿いの道路二百五十メートル舗装するものです。

向部落の環境整備事業の一つとして行なわれ、同部落の美化推進がなされます。

保育所の建設費に五十七万円追加されました。

大浜保育所増改築費に二十四万円補正され、いままでの予算額を加えますと百八十六万円となりました。

また、豊之浦保育所宅地造成事業に三十三万円追加され、同保育所増築費は総額百五十三万円となりました。

教育費

こんどの補正予算の中で一番大きなウェイトをしめているのが、この教育費です。

この教育費の中では、向集会所の建築工事費四百七十万円が計上されています。

現在の向集会所は、約半世紀の風雨にたえていましたが、建物の老朽化によって、このたび建設に踏み切ったものです。

建築場所は、現在の集会所跡です。

新築される建物は、鉄筋コンクリート二階建延百二十九平方メートル（三十九坪）を有し、一階には小会議室、図書室、資料室、ホールからなっており、二階は集会に便利な大会議室（二十一帖）を設けてあり、モダンな近代的集会所に生まれかわります。

また、備品購入費に二十万円予定されています。

これは図書、テレビ、回転黒板書架の購入にあてられます。

伊方小学校、九町小学校両プールの水源を変更するための工事費二十九万円も補正されました。

災害復旧費

町道亀浦、伊方越線の地質調査費に四十五万円計上されました。

また、火葬場災害復旧事業として、火葬場の用地買収費に二百六十五万円と電気外線工事費に十五万円、それぞれ補正されました。

UHF伊方局が開局

鮮明になるテレビ映像

川永田向山にUHF伊方局が九月十二日開局されるはこびとなりました。

このUHF伊方局はNHK松山中央放送局の手によって建設されたものです。

伊方局の開局によって、いままでNHKテレビの映像が不鮮明であった伊方地区の大半が鮮明な画面になります。

川永田向山頂上に高さ十六メートルのアンテナよりみなさんの家庭へUHF電波が流されるわけです。

テレビにこのUHF電波を受けるには、UHFアンテナとコンバーターが必要になります。

これらの機材を設置しなければいままでのNHKテレビ画面と同じで効果はありません。

UHFの電波のうけ方、アンテナの建て方、コンバーターなどについては先月号（八月号）掲載していますのでよく読んでください。

☆四国で一〇〇局目 記念行事きまる （NHK歌謡大会 万才、アクロバット曲芸）

このUHF伊方局の開局は四国で百局目にあたります。

そこでNHK松山中央放送局と本町では、つぎのようなもりたくさんの記念行事を予定しています。

★受信公開

九月九日～十九日までUHF電波でテレビ受像の一般公開がなされます。

役場および伊方町農協の二カ所でオールチャンネルテレビによる受像、普通のコンバーターを使用しての受像が公開されます。

UHF電波の効果をみてみるよい機会です。

★視聴者の声を聞く会
★NHK記念映画の夕べ

九月十一日役場において町内有識者約十五人が参集してNHKテレビの〃視聴者の声を聞く会〃が行なわれます。

また、夜はNHKの記録映画「エベレスト」「NHK一九七〇」が伊方小学校講堂で上映されます。

★開局記念式典
★テレビ相談所の開設

九月十二日、この日は開局当日ですが、川永田向山現地での送電の無事を祈る神事と役場での式典が挙行されます。

また、テレビ相談所も同時に開設されます。場所は中央公民館で行なわれます。

この機会にテレビについて不審な点などありましたらどしどし相談してください。

★伊方町のみなさんとNHKのつどい

九月十五日、この日は「敬老の日」ですが、記念行事のハイライトはなんといってもこの日です。

伊方中学校体育館において、NHK松山放送管弦楽団の〃想い出の歌謡曲〃の演奏会や、伊方中学校ブラスバンド、伊方小学校鼓笛隊の吹奏会が行なわれます。

また、大阪の西川ひかる、赤井タンクの名コンビによる万才、アクロバット曲芸（ザ・ラッキーのみなさん）、NHKのど自慢入賞者歌謡大会などの催しがなされます。みなさんこぞっておでかけください。

川永田向山に建設されたUHFアンテナ

原子力発電研究会が発足

＝学習活動で正しく理解＝

現在、町では原子力発電所の誘致を強力に推進しているところですが、九町地区に原子力発電研究会が結成されました。

この研究会の結成式が八月十七日町見農協会議室に九町部落の代表約六十人が集まって開かれました。

この研究会は、原子発電所は超科学、超技術的な知識を有するため先進地の原子力開発地域の視察や講師を招いての原子力教室とか、お互いに原子力発電に対する研究や相互理解などのための学習活動、知識開発を積極的に行なうため発足したものです。

結成式は会則などを決めたあと役員選出を行ない、その結果、つぎの方々が役員に選ばれました。

会長 三根生清一（須賀）
副会長 松田文治郎（久保）
情報部長 井上近長（須賀）
婦人部長 得能フジヱ（畑）
青年部長 谷村正久仁（久保）
敬称略

研究会ではさっそく学習活動、知識開発の一つとして講演会を開催しました。

八月二十七日東京大学工学部原子力工学科都甲泰正教授をお迎えして、九町小学校屋内体育館に約二百六十人が熱心に原子力発電の学習を行ないました（写真）

この都甲先生は、我が国での原子力関係の権威者で前半一時間は原子力発電の安全性についての講演、後半一時間は質疑応答の時間をもうけました。こと原子力発電のこととなるとさすが質問の数も多く、活発な意見が飛びだし、有意義なうちに盛大に幕を閉じました。

こうした学習によって、原子力発電の安全性を十分理解していただき、町民こぞって〃発展する伊方町づくり〃のため積極的に誘致推進をいたしましょう。

現地ルポ

一日も早く原電誘致を

町見一婦人

「流言飛語は信念の弱きに生ずまどうことなかれ、動ずることなかれ、己に勝つことあたわずして……」という戦陣訓がありましたが、今一度その言葉があてはまるのではないかと思います。

原子力発電所設置反対、柑橘は売れなくなる、魚は食べられない痛い痛い病のようになるのだと、反対共斗委員会の話しを聞いたとき「そういう恐ろしいものを、なぜ伊方町につくるのか」と不思議に思っていました。

だが、このたび教賀原子力発電所を見学して反対共斗委員会の発言は、善良な町民の心をまどわかす反対のための反対にすぎないことを痛感しました。

教賀へ行ってまず目にうつったことは、日本海の美しく青く澄んだ海、魚を釣っている人もいました、近くに人家もあり稲も作っており、海水浴を楽しむ人々も多く反対共斗の話しとは、全然ちがった風景に接したわけです。

原子力発電所は山にかこまれ海に面した広大な場所で壮観というか勇ましい男性的な建物でした。

この建物は関東大震災の三倍もの地震に耐えられるとか、また発電所のすぐ近くに三階建の職員寮もありました。

私たちPR館でいろいろ有意義な説明をうけました。

「なぜ原子力発電が必要なのか」「原子力発電と火力発電はどんな点がちがうのか」「海水中に放射能物質が入ることはないか」「放射能物質はどう処理されるのか」「放射能がもれることはないのか」など気になることを質問してみました。

放射能は「もれん」のでなく「もらさぬ」もの

とくに放射能は「もれん」のではなく「もらさぬ」ものだとの話しでした。もし故障がおきても放射能は外部にもれず、したがって人畜や植物、魚類に被害をあたえることはないこと、海水の冷却系統は原子炉の中を通る水とは完全に分離されており、海水中に放射能がまじることはないなど力強い説明がありました。

わたしは、いままで賛成ではなかったのですが、説明を聞いてから公害がないとわかり別に反対する理由もないと思います。

自然の美しい山や海を失いたくない気持をわたしも持っていますしかし、町の発展、国の発展のためには原子力発電所の設置は必要ではないでしょうか。

もし、公害があるのであれば、いくら交通が便利で、景色がよくても教賀まで海水浴にくる人はいないのではないでしょうか。

また、わたしたちは日常生活においても放射能に接していることを知っていると思います。

反対共斗がいっていることが本当だとしたらレントゲン技師や、原子力発電所に働く人たちはどうなるでしょう。

わたしは一人でも多く先進地を見学し、原子力についての正しい知識を身につける必要があると思います。

未来を開く原子力

現在、開催中のあの雄大な万国博に使用される電気は教賀原子力発電所からも送られているのだと聞いた時、現代から未来へさらに社会が発展するためには、原子力発電所はどうしても必要であると今さらながら痛感しました。

八月二日のテレビで、日曜特集ニュース「核と原子力発電」という番組がありました。

「水力、火力発電が限界にきており、これからは原子力発電なくして社会生活の進歩向上は考えられない、いずれ日本はアメリカ、ソ連について世界第三位の原子力発電国になると推定される。人類にとっても望ましい世界とは科学文明である。原子力といえばあのいたましい原爆を思うのであろうが、こんごは平和利用の方向に進んで行く」というような内容でした。

もう二度とデモとか同盟休校はしないでほしい、子供をまきぞえにしないでください。

わたくしたちは子どもに信頼され尊敬される母親になりたい、そして安心して家業にはげみ、原子力発電所誘致に協力し、一日も早く誘致が成功することを祈っています。

一番のねらい 飲酒運転の全面禁止

道路交通法の一部改正

道路交通法の一部が改正されました。

それによりますと、こんどの改正は飲酒運転の追放が一番のねらいで、お酒を飲んだときはいっさい運転ができなくなりました。

それに運転する人に飲酒をすすめることも禁止されています。

改正点

運転者のみなさんへ

一、飲酒運転はいっさい禁止されました。

一、酒酔い運転の罰則が懲役一年から二年に引き上げられ、点数も九点から十二点にあがった。

一、酒気帯び運転にも三カ月以下の刑、罰金三万円以下の罰則ができました。

一、警察官の行なう呼気検査（風船をふくらますこと）が義務づけられました。

一、悪質な違反事故者が許免を取消された場合免許を受けることができる期間が三年までの範囲で延長されました。

一、交通反則通告制度が未成年者にも適用され交通違反には成人と同じに反則金を納めなければならなくなりました。

一、マイクロバスは大型免許でなければ運転できなくなりました。

自動車管理のみなさんへ

酒酔運転をさせたり、見て見ぬふりをすると罰則は運転者と同じになります。

一般のみなさんへ

運転者に酒類をだしたり、進めたりすることは禁止されました。

10月に国勢調査

――数えて50周年め――

十月一日に、第十一回目の国勢調査が全国いっせいに実施されます。

国勢調査は国、都道府県、市町村の男女別人口や年令、職業などの構成を調査するもので、わが国の最も基本的なしかも大規模な統計調査です。

調査の結果で産業、教育、雇用、住宅、社会福祉、地域開発などの対策や議員数の決定、財政需要額の算定など行政の基礎資料となります。

大正九年に初の国勢調査

わが国初の国勢調査は大正九年十月一日に行なわれました。

この第一回調査で調べた事項は氏名、世帯における地位、男女別出生の年月日、配偶の関係、職業および職業上の地位、出生地戸籍別または国籍別の八項目で、約二十六万人の調査員が動員され調査にあたりました。

この時は十月一日、午前零時に現にいる場所で調べる「現在地主義」といわれる方法で調査され、昭和二十五年の調査からはふだん住んでいる場所で調べる「常住地主義」にかえられています。

明治五年に「戸口調査」

それ以前は明治五年の「戸口調査」以来、国民の戸籍調査はできていましたが、かなり不正確な点があったうえに人口のくわしい状態、たとえば年令別とか職業別などの状態はわかりませんでした。

正確な人口を知るためには、一定の時点で、全国いっせいに調査を行なうことが必要です。

調査にご協力を

今回おこなわれる国勢調査は、大正九年第一回の調査が実施されて（五年目ごとに実施）から十一回目にあたり、ちょうど半世紀を迎え歴史的にも意義が深く、また国際連合が提唱している世界人口センサスの一環ともなりますので、みなさんのご協力をお願いします。

町見中の体操部（女子）

四国大会で三位

町見中学校の女子体操部が新体操部門で四国大会に出場し活躍しました。

同校の新体操部は二年前にチーム編成が行なわれ、チーム編成の初年度には郡優勝、昨年度は県準優勝、ことしは見事に県優勝の栄冠に輝き、県代表として八月二十三日〜二十四日の二日間、徳島市で開催された四国中学校総合体育大会に出場し三位に入賞しました。

この新体操は松田文子さんら六人編成で、体操の床運動を小型化したもので、六人のキビキビした態度、流れるような美しいフォームをレコードのリズムに合わせて行なう競技です。

選手たちは夏休みも返上しての猛練習と、竹邦千秋先生の好指導のもとで、この好成績となってあらわれたものです。

ここに、選手のみなさんに心からお祝いの拍手をおくります。

（写真は四国大会に出場し活躍した選手のみなさん）

お礼

高知県宿毛市小筑紫町高岡にお住いの篠上常芳氏（川永田出身）より五千円。

宮崎県宮崎郡田野町前平にお住いの政木太郎氏（湊浦出身）より二千円。

大分県速見郡日出町大神中央にお住いの神野寓氏（伊方越出身）より千円。

大阪府豊中市小曽根四丁目一五三七にお住いの渡辺孝典氏（川永田出身）より二千円。

北九州市若松区西畑九にお住いの宮脇栄左エ門氏（川永田出身）より二千円。

兵庫県尼崎市三反田字若松三十二にお住いの畑中俊治氏（仁田之浜出身）より二千円。

松山市古三津町一七八二の二にお住いで以前役場に勤務されていた冨貴安男氏（川永田出身）より二千円。

大阪市東淀川区東三国町一丁目二〇六にお住いの神山義明氏（田之浦出身）より二千円。

それぞれ広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

祝・祭日は国旗を掲げましょう

九月十五日　敬老の日
九月二十三日　秋分の日

まごころ銀行

田之浦の志賀トモエさん（前民生委員）より身心障害者の福利更生に役立ててほしいと二千円、また使用済の切手千三百枚をいただきました。

町ではさっそくこの尊い浄財をまごころ銀行へ預託いたしました。

紙上より厚くお礼申し上げます。

当てましょう

県の人口予想　懸賞募集

10月1日に実施される国勢調査にみなさんの協力と理解を深めると同時に、調査に対する意義を高めるため「愛媛県の人口予想」の懸賞募集を行ないます。

◎名称昭和45年国勢調査による愛媛県の人口は何人か

◎応募方法郵便はがきに必らず「県人口予想解答」と書き、はがき1枚に1点の答えと住所、氏名、職業、年令を記入。

なお小中学校児童、生徒は学校名、学年を記入のこと。

◎応募期間昭和45年10月1日（10月1日消印のものまで有効）

◎あて先松山市1番町愛媛県企画部統計調査課内　「人口予想懸賞募集係」

◎賞　金　（一般の部）

1	等	10,000円	1人
2	等	5,000円	2人
3	等	2,000円	3人
4	等	記念品	20人

（小中学生の部）

1	等	3,000円相当の品	1人
2	等	1,500円相当の品	2人
3	等	700円相当の品	3人
4	等	記念品	20人

◎発表および時期

愛媛新聞紙上に発表するとともに本人に通知。発表は11月下旬

◎参考　最近の愛媛県人口はつぎのとおりです。

昭和35年国勢調査人口　1,500,687人
昭和40年国勢調査人口　1,446,384人

水ケ浦小学校1年 みやふじやすみつ

水ケ浦小学校1年 きくちひとみ

水ケ浦小学校3年 田 中 浩 二

水ケ浦小学校3年 上 甲 恵 美

人

昭和45年7月末現在　世帯数　2,426戸

人口 9,409人　男 4,492人　女 4,917人

えんむすび　昭和45年7月1日 7月31日

お誕生おめでとう　昭和45年7月1日 7月31日

おくやみ　昭和45年7月1日 7月31日